

【様式 1-1】

中 札 内 村 長寿命化修繕計画

(計画期間：令和 2 年（2020 年）度
～ 令和 11 年（2029 年）度)

令和 7 年 8 月更新

河西郡中札内村

1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

本村が管理する道路橋は、令和7年度現在 68 橋あり、このうち、建設後 50 年を経過する老朽化橋梁は、9 橋（13.2%）あります。

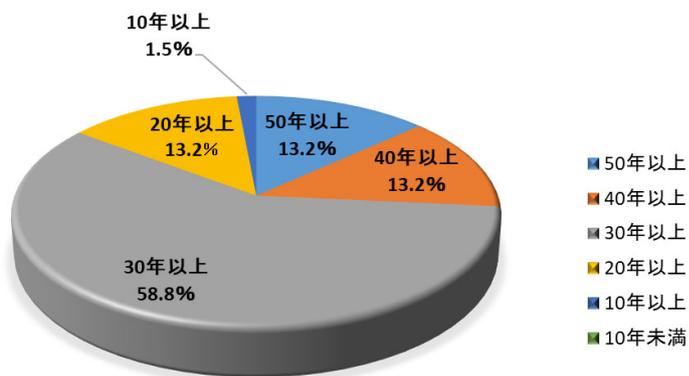
今後 20 年後には、この割合が 85.3%を占め、急速に老朽化橋梁が増加します。

このような背景から、今後、増加が見込まれる橋梁の修繕・架替えに要する経費に対し、可能な限りのコスト縮減への取り組みが不可欠です。

中札内村橋梁経過年数

供用年数（年）	橋数（橋）	割合（%）	累積割合（%）	備考（代表的橋梁）
50 年以上	9	13.2	13.2	緑栄橋（60 年）、興和橋（54 年）
40 年以上	9	13.2	26.4	豊栄橋（45 年）、戸蔦大橋（49 年）
30 年以上	40	58.8	85.2	元大正橋（35 年）、中島新橋（37 年）
20 年以上	9	13.2	98.4	元札内 7 号橋（25 年）、虹大橋（23 年）
10 年以上	1	1.5	100.0	名無橋（19 年）
10 年未満	0	0	100.0	
不 明	0	0	100.0	
合 計	68	100.0	100.0	

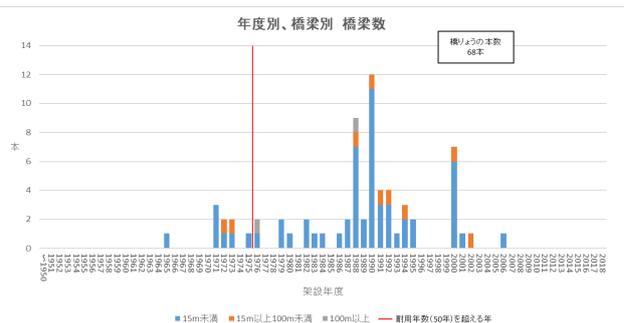
供用年数橋梁パーセントグラフ



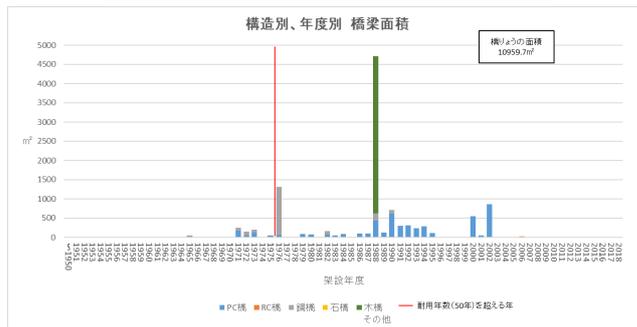
建設後 50 年を経過する橋梁の割合の推移



年度別、橋梁別 橋梁数



構造別、年度別 橋梁面積



2) 目的

道路交通の安全性を確保する上で、中札内村では、これまでの事後的な対応から計画的かつ、予防的な対応に転換を図り、長寿命化によるコスト削減を推進します。

(計画期間：令和2年度～令和11年度の10年間)

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	1級村道	2級村道	その他村道	合計
全管理橋梁数	10	12	46	68
うち計画の対象橋梁数	10	12	46	68
うちこれまでの計画策定橋梁数	10	12	46	68
長寿命化修繕計画の対象：村道認定路線に架かる橋梁				

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

健全度の把握については、橋梁の架設年度や立地条件等を十分考慮して実施するとともに、国土交通省橋梁点検要領に基づいて5年に1度の頻度で点検を実施し、橋梁の損傷を早期に把握します。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、パトロール、清掃などの実施を徹底します。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

1) 基本的な方針

- ・ 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針とともに、予防的な修繕等の実施を徹底することにより、修繕・架替えに係る事業費の大規模化及び高コスト化を回避し、ライフサイクルコストの縮減を図ります。
- ・ 詳細点検結果に基づく橋梁の健全度把握及び損傷状況に応じて、橋梁長寿命化計画を見直します。

2) 対象橋梁の状態

- ・ 対象橋梁の点検・診断結果は、別紙対象施設一覧（点検結果一覧表）参照。

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期

「長寿命化修繕計画一覧表」（様式 1-2）参照。（橋梁長寿命化修繕計画公表資料 2）

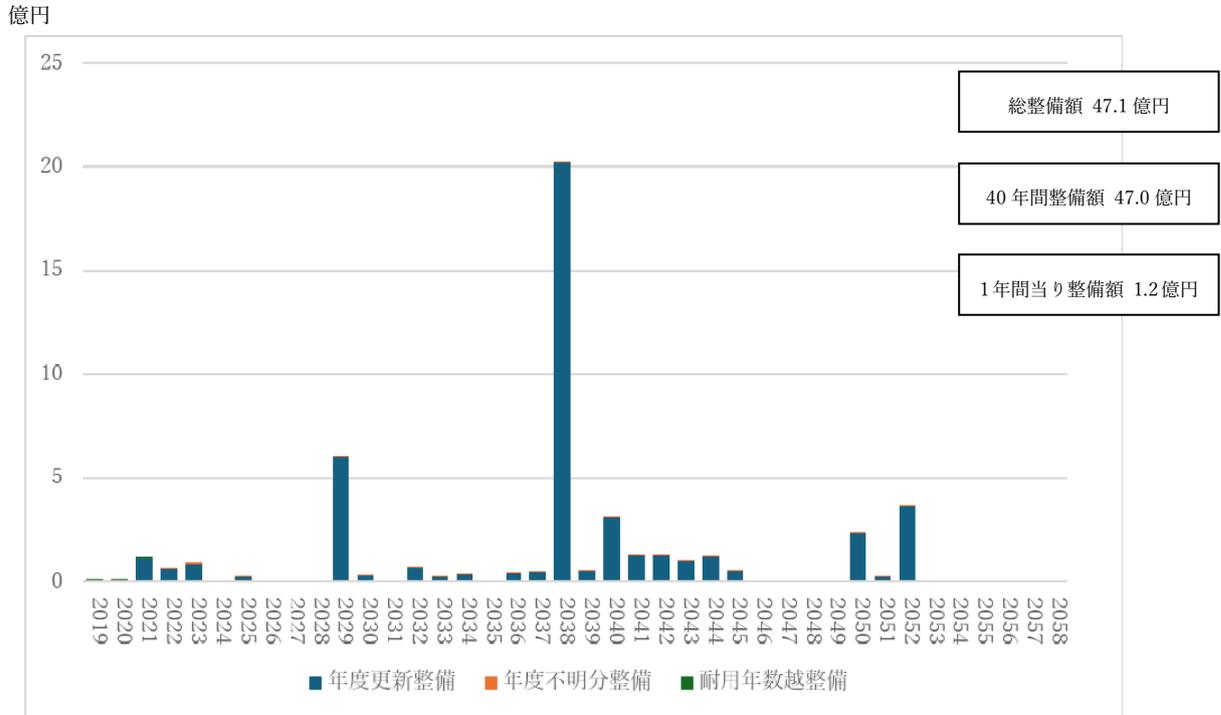
6. 長寿命化修繕計画による効果

- ・ 計画を策定した橋梁については、概ね 10 年～20 年の長寿命化が見込まれます。
- ・ 修繕及び架替えに要する経費については、橋梁形式や仮設工費等複雑な算出となるため一概には表せませんが、経験値の数値では下表を参考にできます。

	今後 10 年間	今後 10～20 年間	今後 20～30 年間	今後 30～40 年間
修繕の架替えに対する経済割合	10%安	50%安	60%安	70%安
架替えの修繕に対する倍率	1.1 倍	2.0 倍	2.5 倍	3.4 倍

年度（年後）	長寿命化修繕費	放置した場合の修繕費	コスト効果
2025	0.2 億円	0.2 億円	0 億円
2035（10）	9.2 億円	10.2 億円	1.0 億円
2045（20）	32.4 億円	36.0 億円	3.6 億円
2055（30）	40.8 億円	89.7 億円	48.9 億円
2065（40）	47.0 億円	125.6 億円	78.6 億円

- ・ 橋梁の直近 5 年間の投資的経費（橋梁長寿命化事業：補修工事）は年平均約 0.19 億円ですが、更新費用を試算すると 40 年間で約 47.0 億円の費用が必要であり、これを平均すると約 1.18 億円（これまでの約 6.2 倍）となります。



※公共施設等更新費用試算ソフト（Ver2.10）にて算定（全橋梁対象）

7. 新技術等の活用方針

- ・ コスト縮減や維持管理の効率化を図るため、国土交通省「新技術情報提供システム（NETIS）」を活用する等、維持管理に関する最新のメンテナンス技術の積極的な活用を図ります。特に定期点検・補修設計については、国土交通省の「新技術利用のガイドライン（案）」を参考にしながら新技術等の活用を目指します。
- ・ 中札内村が管理する橋梁全ての点検・補修に新技術の活用を検討し、令和 11 年度までに約 1 割程度の橋梁で新技術を活用し、従前技術との比較で約 100 万円のコスト縮減を目指します。

8. 集約化・撤去について

- ・ 令和 11 年度までに、迂回路が存在し集約が可能な橋梁について、1 橋程度の集約化・撤去を検討し、将来的な維持管理コストを 300 万円程度縮減することを目指します。

9. 修繕計画策定（更新・改訂）担当部署

- ・ 中札内村 施設課施設グループ

電話：0155-67-2496

FAX：0155-68-3911

メールアドレス：s-sisetsu@vill.nakasatsunai.hokkaido.jp

長寿命化修繕計画の変遷

- ・ 平成 23 年 4 月 策定
- ・ 平成 27 年 8 月 更新（中間期見直し）
- ・ 平成 29 年 12 月 改訂（様式 1-1、1-2）
- ・ 令和 2 年 3 月 更新
- ・ 令和 3 年 6 月 更新（「新技術の活用等」追加）
- ・ 令和 4 年 8 月 更新（「新技術の活用方針」修正、「集約化・撤去について」追加）
- ・ 令和 7 年 8 月 更新（中間期見直し）